

## 第62回特別展

MOA美術館名品展・近世日本の美

### 黄金と雅

本展は、神戸新聞社創刊100周年・第51回世界新聞大会神戸開催・明石海峡大橋開通を記念し、特別展「MOA美術館名品展近世日本の美—黄金と雅—」と題して開催された。

MOA美術館は、紺青の海を一望する熱海の山の頂上に建てられ、さながら美の桃源郷という趣をもつ美術館。昭和32年に熱海美術館として誕生し、57年に創立者の名を冠してMOA美術館とあらため現在に至っている。コレクションは門外不出とされている尾形光琳筆「紅白梅図屏風（国宝）」、野々村仁清作「色繪藤花文茶壺（国宝）」、「湯女図（重文）」など国宝3点、重要文化財62点、重要美術品47点を含む約三千数百点。その内容は絵画、書跡、彫刻、工芸など、日本、中国をはじめとする東洋美術、ヨーロッパ絵画にまで及んでいる。

このたびの展覧会では、同館の全面協力を得て、重要文化財3件を初めとする89件の厳選された美術品と秀吉がつくらせた「黄金の茶室」の復元を展示した。出品作品は「南蛮美術と輸出磁器」、「茶の湯」、「琳派」、「初期風俗画と浮世絵」の四つのテーマに分けて展観され、桃山から江戸時代にかけて約300年におよぶ多彩な日本の美の系譜を名品で概観した。



※この図録は現在当館では扱っておりません。

会期／平成10年5月30日（土）～6月28日（日）

会場／特別展示室1、南蛮美術館室

主催／神戸市立博物館、神戸新聞社

後援／兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会、サンテレビジョン、AM神戸

協力／MOA美術館、（財）エム・オー・イー美術、文化財団兵庫支部

開催日数／26日

入館者数／38,807人（1,493人／日）

出品件数／89点（うち浮世絵版画の展示替を含む）